

# \* 研究授業からの学び \*

2021. 6. 15  
No. 1  
文責 新玉

令和3年 5月26日(水)  
第2学年 生活科 土本 真緒 教諭  
単元名 「ぐんぐんそだて わたしの野さい」(全10時間)  
内容 (7) 動植物の飼育・栽培

## <育てたい資質・能力>

- 植物が生命をもち、成長していることに気付く。【知】
- 植物の変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができる。【思】
- 生命に親しみをもち、大切にしようとする。【主】

## 本時の目標

植物の状況に応じて世話の仕方を考え、よりよい世話に気付くことができる。

## 本時の評価規準

育てている野菜の状況に応じて、世話の仕方を考えようとしている。【注:振り返り】



本時の授業風景



キュウリの葉が虫に食べられていました。どうしよう。

本時の板書(5/26)



## 研究協議より(抜粋)

### 授業者より

- 子どもたちは、実際に観察する活動を通して、野菜の成長について気づき、世話の仕方を考えようとしていた。
- 時間配分に課題があった。前半が野菜の観察が中心の活動になったため、後半の活動に時間が足りず、本時のまとめや振り返りができなかった。
- 授業後に世話の仕方について聞きたい人と言う姿が見られた。時間があれば活発な話し合い活動につながる事ができたと思う。

### 参観者より

- 実際に野菜を観察することで、児童が興味、関心をもって活動していた。植えたときや1年生の野菜と比較しながら、たくさんの気づきがあった。
- 子ども同士をつぶやきや発言をうまくつなげ、児童の思考が深まる問い返しをして、学習を展開していた。
- 本時のねらいを明確にして時間配分することが必要だった。
- マトリックス表を活用するなど教材を工夫することで、付箋を有効活用できたのではないかな。

### 指導主事より

- ・実際に観察し、見たり触ったりすることで、子どもたちは気づいたことや自分の意見を言うことができた。生活科でとても大切なことで、自分事として考えることができていた。
- ・1年生の野菜と比較し、「どう?」と声をかけるだけで「育て方が悪かったのかな」という声が聞こえ、自然と気づく姿が見られた。
- ・気づきはいろいろあったが、今まで育てた野菜と比較するなど、自分の経験を振り返らせるとさらによかった。
- ・意見は出せなくても、しっかりと観察している子どもを評価することも大事。
- ・観察して気づいた熱をもったまま意見を出させ、大事なキーワードを教師がまとめると、間延びせず時間も有効に使えたのではないかな。

### 授業者のリフレクションより

実際に体験活動を行うことで、児童が小さなことにもたくさん気付くことができた。しかし、体験活動を行い、移動等にかかる時間を見誤り、発表時間が間延びしたことで時間配分がうまくいかず、話し合いの時間や話し合い活動の時間をしっかりとることができなかった。余裕を持ったタイムマネジメントをし、テンポを意識した授業を構成していく。また、いいつぶやきを拾いきれずに児童の発言に広げることができなかった。これからは、児童の気づき、知りたい、見たいという意欲を下げないような活動や発問を考えた授業づくりを行っていきたい。

### ☆これから取り組んでいきたいこと

- \*教材研究(教材の捉え、タイムマネジメント)
- \*付箋の活用・思考ツールの活用
- \*気づき・つぶやきを全体に広げる
- \*思考や学びの残る板書